

愛媛県人口問題総合戦略専門委員会 開催結果（概要）

平成 27 年 9 月 29 日(火)15:00～17:00

第 1 別館 3 階第 5 会議室

地域に働く場所をつくる・人を呼び込む

- ・就職支援による若年者の就職件数の現状値 2,230 件というのは若年者就職支援センターの年間実績数値と同数であり、この数値をそのまま使っているのであれば、若年者就職支援センターでの取組なので戦略の中でしっかり書いてほしい。また、県内就職の数ということであれば 2,230 件の中には施設を利用して県外に就職した人もいるので確認が必要である。
- ・障害者の就職件数で平成 26 年度の 1,042 件というのはハローワークでの実績値であると思われるが、これは 1 番多く就職された件数である。就職件数は年間に概ね 100 件ずつ増加してきているが、それを基にしても平成 31 年度に 1,800 件は厳しいと思われるので算定の根拠を確認してほしい。
- ・大学生及び障害者の県内就職率を向上させるとあるが、それらが高校生、短大生の就職先を奪うことになっては意味がない。新規事業の立ち上げを含め、雇用の総数の増加は平成 31 年度にどのくらいを見込んでいるのかを示してほしい。
- ・次世代の成長産業へのチャレンジ支援のところの K P I で、医療や炭素繊維の分野を掲げているが、最初の出発はこの 2 つで構わないとして、今後のことを考えると、間口を広げてより効果の大きい方法を模索した方がいいと思う。
- ・にぎわいの創出による交流人口の拡大のところ K P I で観光客数を挙げているが、観光客には日帰り又は宿泊、国内から又は海外からなどいろいろなパターンが考えられるので、そこを更にブレイクダウンして位置づけを明確にしつつ、経済効果を含めながら目標を精査、あるいは精度を高めていくことも必要である。
- ・全般通じてのことになるが、いかに企業を巻き込むかというのが重要である。新たな雇用を生み出すという観点でいうと、例えば第二創業などで新たな分野にどんどんチャレンジしていくような企業を支援していくことも必要になると思う。

出会いの場をつくる・安心して子供を生み育てる

- ・仕事と生活の調和の実現が図られていると感じる人の割合が現状値 48.8%のところ、平成 31 年度に 48.8%「以上」という書き方が消極的だと感じるため、「以上」ではなく「半数以上」というようにしてはどうか。
- ・公立小・中学校における地域等でのボランティア実施校の割合は平成 27 年度に 100%を達成しているデータであり、意気込みを示すのであれば平成 31 年度に向けて少し右肩上がりの達成が目指せるものを出してはどうか。
- ・ボランティアによるきめ細かな交際フォローなど成婚へ向けた支援のところ、かなり年上の方が結婚のアドバイスをするという従来のイメージがあると思うが、そうではなく、ちょっと年上くらいでえひめ結婚支援センターを活用して成婚したという O B のカップルの方が参加してくれるとその次の子育て支援のところにも繋がっていくイメージができていいと思う。

- ・子育てのところで、全体の数というより質の話になるが、スマホアプリでも既に民間でやっているものや自治体で先行して動いているものもあると思うので、利用者の声も聞きつつ、それらを踏まえて改良してよりよいものにしてほしい。更には、愛媛県にはこういう特徴があるということもPRしてほしい。
- ・地域の子育てセンターや認定こども園等については、必要とされる場所に充実させていくことが大事であることから、施設の数や利用人数だけではなく分布も気にしてほしい。
- ・ワークライフバランスの認識や意識に関する指標のところで、意識調査的なものをするのであれば、何が意識を高めるのか、逆に何が阻害しているのかなど、要因をきっちり押さえることが大事であり、更には、それを別の領域の施策にも活かしてほしい。
- ・育休の取得率については、民間企業だけではなく、県や市の職員に率先して取得してもらい、模範となる姿を見せてほしい。また、例えば教育の現場で男性職員が取得することで若い世代に印象付けるというのもよいと思うので、「数」や「%」だけでなく中身も大事にしてほしい。
- ・インターンシップを行っている県立高校の割合が平成 25 年度で 92.7%、平成 31 年度が 94.0% 以上という数値目標になっているが、高校のときのインターンシップは重要だと思うので、100% に近い数字を目標にしてはどうか。

元気な地域をつくる・いつまでも地域で暮らせる

- ・愛媛ボランティアネット会員登録数を指標にしているが、会員登録をしても実働していないところもあると聞くので、実働稼働率というデータの方がふさわしいのではないかと思う。
- ・交通路線の維持のところで、自動車の普及と道路網の整備が進む中、公共交通機関の利用を促進する施策がないと維持は難しいと考える。まずは、公共機関の利用度を例えばパーソントリップ調査などで調査し、利用状況を分析して、今後の対応を検討することが必要だと思う。
- ・個性豊かな地域文化の創造と承継のところで、国・県の文化財数が指標とされているが、当然に減るような性質のものではなく他の指標と比べて少し違和感を感じる。文化財の発掘や維持にボランティアなどの地域住民の力が必要であり、そうした文化活動を通して地域の魅力を高めていくということであれば、地域の魅力の発掘であると記載することで、だから文化財数が指標であると理解しやすくなると思う。
- ・地域に人が集まってくるためには、地域の魅力を発掘し、それをビジネスにつなげるなどいろいろな活動をして盛り上げていくことが必要である。その中でリーダーとなる人が大事になってくるが、地域づくりリーダー研修の修了者がそれらを担う人材となれるよう、しっかりと充実した研修を実施し、活躍できる体制を整えてほしい。

そのほか

- ・KPIに出ている数字について、フローの数字とストックの数字が混じっており、どちらなのか見えにくいところが気になる。
- ・多くの取組や具体的なKPIがあるが、それぞれの施策や取組の関連性をマップで整理して明確にすることで、何が重要なのがわかる。また、その重要度に応じて、ある程度濃淡をつけて取組を実施していくことが、関連する施策への波及効果を生み出すために重要だと思う。